

群馬県内自動車部品製造企業の経営動向と意識調査 ～半導体不足等による操業停止は、2021年度県内総生産を0.7%程度下押し～

群馬経済研究所 主席研究員 河村英輝

調査のポイント

定点観測を目的とした県内自動車部品製造企業の経営状況に関する2021年度のアンケートと統計データにより、県内自動車メーカー生産停止の県内経済や企業への影響を調査・分析した。

要約

- 2021年度は半導体不足や新型コロナウイルス感染拡大に伴うサプライチェーンの不安定化で、群馬県内自動車関連産業は生産調整が頻発した。県内自動車メーカーの生産停止による県内関連産業への影響について当研究所が試算したところ、県内総生産を629億円、およそ0.7%程度押し下げたとみられる。
- 21年度前半（4～9月）の経営状況について尋ねたアンケートからは、県内自動車部品製造企業は、前年同期比で概ね業況改善の方向に向かいつつある。しかし、仕入価格については、21年度後半見通し（21年10月～22年3月）でおよそ6割が上昇すると指摘しており、新たな経営上の懸念材料となりつつある。
- 外部から受けた影響を尋ねたところ、「コロナ禍によるサプライチェーンの不安定化」と「国内自動車販売動向の変化」については、7割が前年度より経営に与えた影響が厳しくなると回答した。部品調達難とそれに伴う販売台数減少が影響したとみられる。
- 自社の経営課題を尋ねたところ、「資材・製造経費の増加」について最多の7割の企業が厳しくなると指摘しており、前年に比べ大幅に増加した。
- 将来の経営の方向性については、EV、FCVへの対応に関し、様子見が4割台と最多で、積極対応が2割台にとどまった。一方、FCVへの対応に関しては前年に比べ倍増、意識の高まりが感じられた。